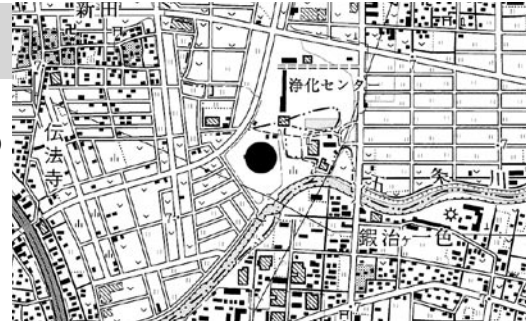


でんぼうじのだ
伝法寺野田遺跡

所在地 一宮市丹陽町伝法寺地内
(北緯 35 度 15 分 46 秒 東経 136 度 50 分 39 秒)
調査理由 五条川右岸流域下水道事業
調査期間 平成 18 年 11 月～平成 19 年 3 月
調査面積 2600 m²
担当者 石黒立人・蔭山誠一



調査地点 (1/2.5万「一宮」)

調査の経過 本遺跡の発掘調査は、五条川右岸流域下水道事業にかかわる工事の事前調査として、愛知県建設部下水道課から愛知県教育委員会を通じた委託事業である。本年度の調査区(06区)に隣接する地点を、1998年度に06区の西を98B区として、1999年度に06区の北を99区として発掘調査が実施されており、本調査区の北と西で中世の溝や土坑等、本調査区の西で弥生時代中期中葉の水田遺構と溝、本調査区の北で環濠とも認識できる溝と竪穴住居や土坑等が確認されている。本年度の調査面積は2600 m²で、現地表面から中世から現代の堆積層が混在して堆積する高さまで機械掘削により除去し、中世以前の遺物を包含する堆積から下の古い堆積を発掘調査した。

立地と環境 当遺跡は五条川右岸の氾濫原地帯に位置し、遺跡および付近の標高は6m前後であるが、五条川右岸上流域下水処理場内の本調査地点は2m前後の盛り土がされている。

調査の概要 本年度の調査では弥生時代中期中葉以前の小区画型の水田遺構(3面)、弥生時代中期中葉後半～古墳時代前期の小区画型の水田遺構(2面)、古代の条里型の水田遺構と中世の溝・方形土坑・水田遺構(3面)を確認した。

弥生時代中期中葉以前の水田遺構(3面)は、これまで確認されていない下部にある自然堆積上にある灰色シルト・細粒砂の上面にて検出でき、本遺跡の北東から南西に傾斜する地形に沿った小区画型の水田遺構と溝3条、土坑5基が確認できた。水田遺構は一辺1m～3.5m前後の小区画で、溝は3条とも水田遺構の畦畔が形成された後に掘削されたようで、溝の周囲において畦畔が溝に直行する畦畔が形成されている。溝は北側の溝と南側の溝が本調査区内のわずかな微高地部分の流れ、中央の溝が窪地の南端を流れる事が確認でき、推定される水田面と溝の標高等から北側の南側の溝が用水路、中央の溝が排水路の可能性が高い。灰色土の中からは遺物がほとんど出土せず、わずかに土器片が数片確認されたのみである。

弥生時代中期中葉後半～古墳時代前期の水田遺構(2面)は、本調査区の西で確認されている小区画型の水田遺構の続きで、下部にある灰色シルト・細粒砂の水田遺構の上に白色シルトの堆積からなる自然堆積を挟んだ上にある黒色～黒褐色シルト・細粒砂上面にて検出でき、本遺跡の北東から南西に傾斜する地形に沿った小区画型の水田遺構と溝1条、土坑1基が確認できた。水田遺構は一辺1m～3m前後の小区画で、溝は調査区中央を北から南に検出できた。この溝の周囲においてのみ、畦畔が溝に直行する形で形成されている状況が確認できた。この溝は本調査区の北にて確認されている弧状に廻る溝と位置が対応する事から、その下流部分に対応するものと考えられる。

古代の水田遺構(1面)は、今回の調査において初めて確認されたもので、下部にある黒色～黒褐色シルト・細粒砂の上に黄白色シルトの堆積からなる自然堆積を挟んだ上に

ある灰褐色シルト・細粒砂上面にて検出できた。水田遺構は東西 10m ～ 13m 前後、南北 6m ～ 13m 前後の区画に畦畔により区切られた条里型水田で、調査区西側を南北にはしる畦畔のみ他の畦畔の幅 0.5m ～ 0.7m より幅広な 1.6m ～ 1.9m 前後で検出でき、水田のより大きな区画を示すものの可能性が高い。

中世の遺構（1面）は古代の水田遺構を掘り込む形で検出されたもので、方形土坑が3基、溝4条が確認された。これらの溝は本調査区の西と北の地点において、これまでに確認されているものと対応するものである。（蔭山誠一）



1面の水田遺構（南西より）



2面の水田遺構と溝（北より）



2面出土の長茎石鍬



3面の水田遺構（南西より）